

建設の機械化

2002.1

No. 623



特集：21世紀のインフラストラクチャと多様化する建設技術

◆巻頭言 2002 年年頭のご挨拶	玉光 弘明	1
21 世紀的建築と都市	宇野 求	3
日本道路公団における ITS の取組み—VICS・ETC の導入について—	佐藤 元久・宇野 秀保	9
超電導磁気浮上式鉄道 (リニアモーターカー・マグレブ)	夏原 博隆	14
宇宙構造物の建設	松本 信二	20
地下空間の建設を支えるシールドトンネル技術	永森 邦博	26
山岳トンネル用建設機械の未来像	内田 正孝	30
家畜ふん尿のメタン発酵処理と消化ガス発電	小川 幸正・中川 悦光	34
動く建築構造物	油川 真広・石川 善弘	38
旋回可動式浮体橋の開閉設備	関戸 孝・土屋 昌義	45
建設機械のデザインと安全性	宇井 邦夫	49
移動式クレーン技術の方向性	後藤 普司	52
グラビヤ—21 世紀のインフラストラクチャと多様化する建設技術 17		
◆ずいそう 身だしなみ持論	中野 一孝	56
◆ずいそう 私とゴルフ	葛谷 政勝	58

JCMA

目次



◆新工法 03-148 高層 RC 造建物内部への大型タワークレーン設置工法 (大成建設) / 05-49 地下揚水自動管理システム (竹中工務店)	調査部会	60
◆新機種紹介	調査部会	62
◆統計 建設関連統計	調査部会	67
行事一覧 (平成 13 年 11 月)		68
編集後記	(久保・百瀬・星野)	72

◇表紙写真説明◇

特殊シュート付きロータリ除雪車
2.6 m 級 (300 kW 級), ツーステージ式,
JR 300 (高速) 型
TCM 株式会社

除雪作業における排雪場所の確保は重要な課題である。運搬排雪作業により支障のない場所へ捨雪する方法が一般的に行われているが、交通の阻害にもなり作業能率が悪い。本機は、高速道路除雪において多くの実績を有する 300 kW 級ロータリ除雪車について、特殊シュート装置の装着により道路高架橋下の用地を利用して、その敷地内へ直接投排雪できるようにしたものである。高架橋高さは 10 m 以上あり、道路側壁高さ 2.6 m を超えて下部の敷地内の支障のない地点に巻き込み投雪するものである。

特殊シュート装置は、回送時において折りたたみ格納が可能であり、先端キャップを外せば通常のダンプトラック積み込み投雪ができる。

<本機的主要仕様>

最大除雪量	3,400 t/h
最大除雪幅	2,600 mm
除雪機構前面高さ	1,700 mm
投雪距離	18, 28, 46 m
走行速度 (前進最高)	作業時 42 km/h, 回送時 70 km/h
最小回転半径 (最外側)	車体屈折時 7.6 m, 前輪換向時 12 m
機関出力	305 kW (415 PS) / 2,000 min ⁻¹
全長 (走行姿勢)	8,850 mm
全幅	2,600 mm
全高	3,580 mm
車両総質量	19,800 kg